

東京女子医科大学 防災マニュアル

学校法人 東京女子医科大学

<目次>

1. 自衛消防隊員の役割	1 ページ
2. 本学の自衛消防組織図	2 ページ
3. 火災発生時の対応マニュアル	3～4 ページ
4. 通報連絡班	5 ページ
5. 初期消火班	
(1) 消火器による消火活動	6～9 ページ
(2) 屋内消火栓による消火活動	10～12 ページ
① 1号消火栓の操作方法	
② 消火用散水栓（補助散水栓）、2号消火栓の 操作方法	
(3) その他の設備について	13～14 ページ
① スプリンクラー設備	
② 排煙設備	
6. 避難誘導班	15～16 ページ
7. 大地震発生時（震度5弱以上を対象）の対応	17～19 ページ
8. 安否確認、災害時伝言ダイヤル	20 ページ
9. 新宿区広域避難場所	21 ページ



1. 自衛消防隊員の役割

－火災は早く発見して小さいうちに消火する－

消防法では、大学（非特定用途防火対象物）や・病院、診療所、百貨店（特定用途防火対象物）等のように不特定多数の人が利用し、又多数の人が勤務している防火対象物は、消防用設備等の設置が義務付けられ、**管理権原者（本学は理事長）**に対して、防火・防災管理の義務を課しております。

また**防火防災管理者**を定め、当該防火対象物についての「**消防計画**」を作成し、火災予防と、万一、火災・災害が発生した場合でも、被害を最小限にとどめるよう、自主防火・防災管理の義務付けと管理体制強化のため**自衛消防組織の編成や訓練等**に関する事項を定めています。

自衛消防隊の中心的任務は、**通報連絡・初期消火・避難誘導**となっています。

<通報連絡班>

- ・災害時の発生状況の確認、情報収集
- ・**防災センター**への通報、関係者等への連絡
 - 若松町側（総合外来センター1階）内線短縮 **111 番**
 - 河田町側（中央病棟1階）内線短縮 **112 番**
- （本部 / 女性生涯教育支援センター、看護学部、先端生命医科学センターからは 内線短縮 **5111 番**）
- ・隣室および上階や隣棟への連絡
- ・真火災時は、（外線“0”発信後）**119 番**通報する。

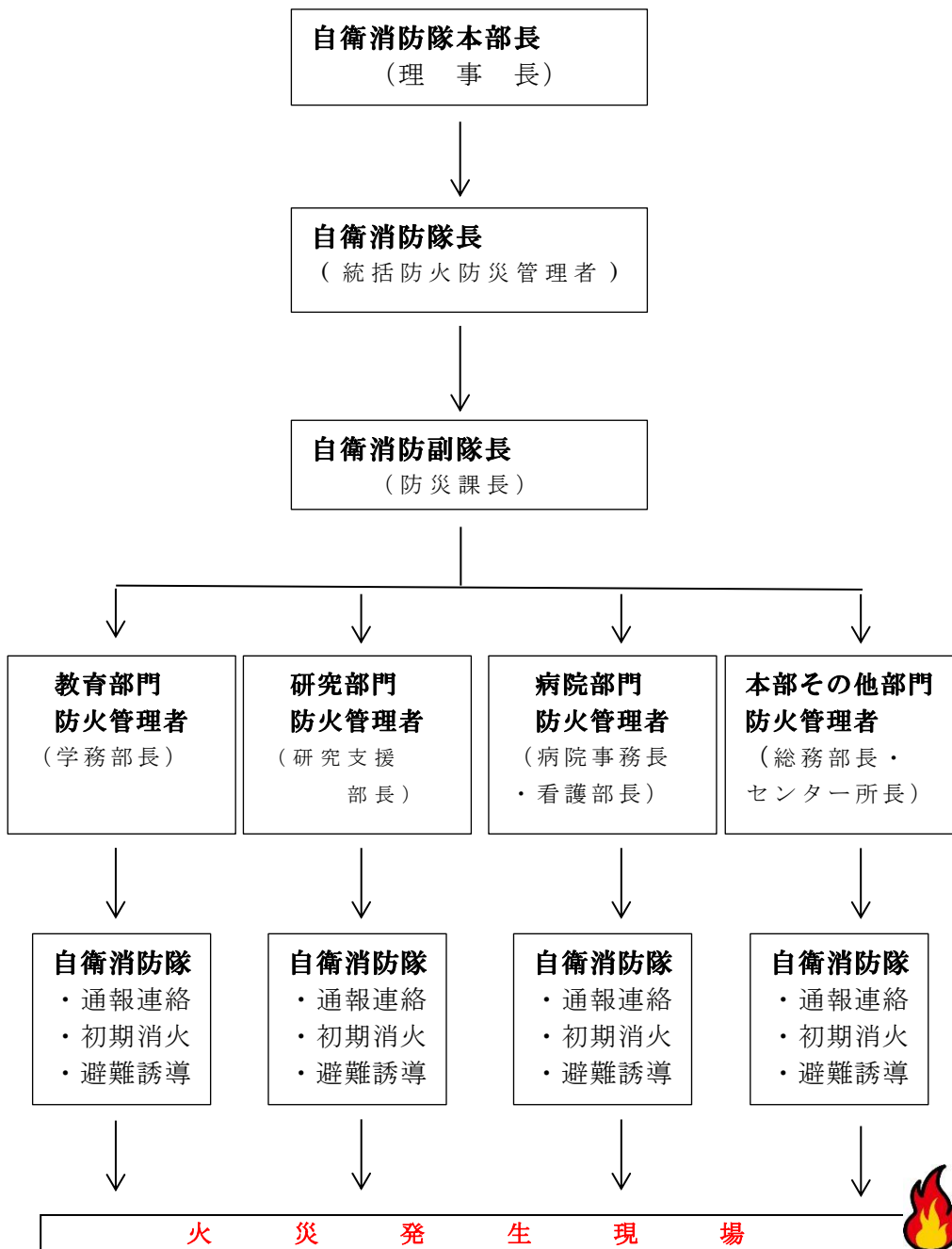
<初期消火班>

- ・出火場所の確認、消火器、屋内消火栓（消火用散水栓等）による初期消火活動

<避難誘導班>

- ・在館者の誘導、人員の確認
- ・非常口の開放、避難後の開口部（防火戸など）の閉鎖
- ・避難器具の設定
- ・避難場所への誘導、逃げ遅れの有無の確認
- ・在館者のパニック防止措置

2. 東京女子医科大学 自衛消防隊組織図



3. 火災発生時の対応マニュアル

Ver. 6 : 2014年4月

火災を発見した場合の措置	火災報知器が発報した場合の措置
<p>① 通報連絡 大声で火事であることを周囲（出火階・直上階）に知らせる。 ・地下が出火の場合は地下全域と1階にも知らせる。</p> <p>② 非常ベル（火災報知機）を強く押す。もしくは、非常電話を使用する。</p> <p>③ 防災センター（短縮111番 短縮112番）と消防庁119番に通報する。 （※本部／女性生涯教育、看護学部、先端生命医科学からは、短縮5111番）</p> <p>④ 夜間・休日等においては管理当直者（日直・夜間管理看護師長）に連絡する。</p>	<p>① <u>非常放送等を聞いた職員は、火災が疑わしい場合、（自ら119番通報し）防災センターに連絡し、指示を待つ。</u></p> <p>② 現場に所在する者全員で分担し、真火災であるか誤報であるかを確認する。</p> <p>③ 現場確認にあたっては、煙が見えない場合であっても、安易に「火災ではない」と判断することなく、機械室、ダクトスペース等の隠れた部分を見落とさないようにする</p> <p>④ 現場確認者は、結果を防災センターに通報する。</p> <p>※ 真火災であった場合の措置は、以下のとおり。</p>
<p>⑤ 初期消火 現場に所在する者は、消火器・屋内消火栓等により消火活動を行う。 （漸次、自衛消防隊・警備員・保安課員が増強）</p> <p>⑥ 避難誘導 出火階と直上階の患者（在所者）を優先的にする。階段を利用して、1階の一時避難場所に誘導する。エレベーターは使わないこと。 また水平移動が可能であれば、別棟へ誘導する。 （例：中央病棟⇄東病棟）<u>逃げ遅れた者がいないかを確認後、延焼を防止する為、最後に必ず防火戸を手動で閉めて退避する。</u></p> <p>⑦ 消防署・防災センター等の指示 その後の措置については、消防署および防災センターの指示により活動する。</p>	

・**非常ベル（火災報知機）を押すと、初期消火に必要な3動作が同時に行われる。**

①**防災センター ベル鳴動**

②**建物全館（出火階・直上階のみ一部有）非常放送又はベル鳴動**

③**消火栓ポンプ 起動**

発報時の防災センター要員の対応

① 真火災であるか否かの確認

- 防災センターにおいて、自動火災報知設備の受信機に火災表示を認めた場合は、直ちに管轄する警備員を現場に派遣させるとともに発報現場に電話連絡する。
- 防災センターに勤務員（保安課員）が複数所在している場合は、1名が無線機等を携行し、現場に急行し、真火災であるか否かを確認する。

② 真火災であった場合の措置

- 真火災であった場合は、直ちに（外線“0”発信後）119番通報するとともに防火管理者に報告する。
- 火災の状況によっては、非常放送設備により避難等の必要事項を放送する。
- 『火災、大規模災害発生時の緊急連絡網』により大学、病院関係者に報告する。

<参考> 非常ベル（火災報知機） 非常電話 消火器 屋内消火栓



（第1病棟）



（中央病棟・東病棟）

- ・ 非常ベル（火災報知機）
- ・ 非常電話
- ・ 消火器
- ・ 屋内消火栓（消火用散水栓）

- ・ 非常ベル（火災報知機）
- ・ 非常電話
- ・ 屋内消火栓（1号消火栓）

4. 通報連絡班

- ・ 情報収集を行う。
- ・ 火災の発見者は、
（外線“0”発信後、） 119番通報
及び 防災センター（総合外来センター
短縮111番、または中央病棟 短縮112
番）へ状況等を通報する。
（※注 本部 / 女性生涯、看護学部、先端生命医科学 TWIns からは、短縮5111番へ）



- ・ 通報は、慌てずダイヤルし、次の通報内容を正確に言う。
 - ①「火事です。」と火災である事を伝える。
 - ②出火場所（所在地 新宿区河田町8-1、又は 若松町3-1 他、
建物の名称・階数 ○○病棟○階△△部屋）
 - ③何が燃えているか。 また その延焼程度。
 - ④逃げ遅れの有・無
 - ⑤危険物の有・無 などを報告する。
- ・ 携帯電話や PHS での通報の場合は、その旨を伝える。
（携帯電話等は、中継基地などの関係から災害発生地域を管轄する消防本部以外へ通じる場合があるため）
- ・ 建物の中にいる人に火災が発生したことを知らせる。
（「火事だー!!」と大きな声で叫ぶ。） （消防計画より抜粋）

< 自衛消防審査会風景（牛込消防署にて） >



< 自動火災報知設備 >



< 火災通報専用電話機（左） >



（右は採水口連絡用インターホン）
（総合外来センター 1階防災センター）

5. 初期消火班

初期消火には、消火器、屋内消火栓等人が操作するものと
スプリンクラー設備のように自動的に消火するものがある。

（1）消火器による消火活動

種類と操作方法について

※消火器の種類

- ・ 本学には、粉末（ABC）消火器*及び強化液消火器が設置してあります。（すべての火災に適応。）

・消火器の標識の色別と性能について

(A)

(B)

(C)



(普通火災用)

(油火災用)

(電気火災用)

標識の色別	火災の区分	主な適応火災
白	普通火災 (A)	木材・紙・繊維類の火災に有効
黄	油火災 (B)	ガソリン・重油・灯油等の液体燃料の他動、植物油等の火災に有効
青	電気火災 (C)	電気火災、電気設備の過熱、ショート等による火災に有効

* 粉末消火器のABCとは、国で決められている規格のこと。

どのような火災に対応できる薬剤なのかということを表しています。

※消火器の有効射程距離と噴射時間について

粉末消火器10型	……	・有効な射程距離	3～6メートル
		・噴射時間	約16秒
強化液消火器3型	…	・有効な射程距離	3～7メートル
		・噴射時間	約24秒

<粉末消火器>

<強化液消火器>



- ・ 間近に設置してある消火器を利用し、
(出来るだけ多く火元近くに集め、)
連続して集中的に使用する。



- ・ 消火作業は、①まず避難路を確保し、
有効射程距離（一般的な消火器の場合は、
3～5 m）を考え、危険が及ばない程度に
出来るだけ火元に近づく。

②煙、火災等で受傷しないように姿勢を低くし、煙に惑わされないよう火点に向かって手前から火元に向けて、ほうきで掃くように操作し、消火薬剤を放射する。

又、吹き返しや燃えているものが飛び散ることがあるので注意する。

- ・ 煙は、熱気や有毒な成分を含んでいるので、注意する。
- ・ 消火活動のため、扉を開ける場合は、ドアを盾にした面に立ち、徐々に開放する。絶対に開口部の正面に立たないこと。
(不用意に開口部をあけると燃焼に必要な酸素が供給され、爆発的な燃焼を起こすことがある為)
- ・ 消火器による初期消火時間の目安として「炎が天井面に達する前までの間」とする。
- ・ 炎や熱気で室内に入れない場合や施錠されて内部進入できない場合は、粉末（ABC）消火器を使用し、出入り口や窓など隙間等から放射する。（外気が勢いよく流入する場所を選び、粉末消火剤を放射する。）
又、密閉消火を試みた場合は、消防隊（消防署）が到着するまで、出入り口の扉など開口部は開けないようにする。

- 消火器で消火出来ないと判断した場合、直ちに③屋内消火栓設備（1号消火栓、消火用散水栓（補助散水栓）または、2号消火栓）による消火活動を行う。熱又は煙等の発生により、危険を感じたら無理せずにすぐ避難して下さい。（出火室内が延焼拡大中等の場合など）

<消火器の操作方法>

1. 火元まで搬送する。



2. 安全ピンを抜く。



3. ノズルを火点に向ける。



4. レバーを強く握る。燃焼物に直接放射する。



(2) 屋内消火栓設備による消火活動

設備の種類と操作方法について

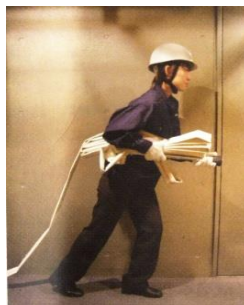
① 1号消火栓 … 原則として複数の者が協力して操作する。

放水をする人(A)と消火栓側のバルブを操作する人(B)の2人(以上)での操作方法

1. 起動ボタン（火災報知機）を押す。
(消火ポンプが起動し、表示灯が点滅することを確認すること。)
2. 屋内消火栓箱の扉を開く。



3. (A) は、ホースを乱さないように素早く取り出し、ねじれがないように確認しながら延長し、出火場所へ移動する。放水準備をする。



4. (B) は、(A)からの「放水始め。」の合図で、消火栓箱内の開閉バルブを全開して送水する。その後、出火場所へ移動する。(A)の1～2歩後方でホースを持ち、補助する。



②消火用散水栓（補助散水栓）、 2号消火栓

… 1人での操作が可能（方法）

1. 筒先を持ち、バルブを全開にする。
（バルブを全開にすることにより、
消火ポンプが起動する。）
2. ホースを持ちながら延長し、
出火箇所へ向かう。



3. 放水準備が出来たら、ホースノズルの
コックを回し、放水する。



（第1病棟の場合）

3. 放水準備が出来たら、ホースノズルの
レバーをひねり、放水する。



（総合外来センターの場合）

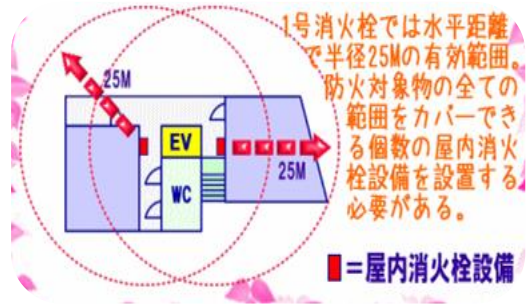
- ・屋内消火栓設備のポンプを停止する（放水を止める）場合は、
起動ボタンを戻す。

※屋内消火栓の放水量、ノズル放水圧力の違い

- ・ 1号消火栓 …… 130リットル／分以上、0.17～0.7MPa
- ・ 消火用散水栓（補助散水栓）、2号消火栓
…… 60リットル／分以上、0.25～0.7MPa

※各消火栓の基本警戒区域半径（消防法により規定）

フロア内の水平距離で、消火栓本体からの各範囲（m）で消火活動を行う能力がある。という事を示す。



- ・ 1号消火栓 … 半径25メートルの円

- ・ 消火用散水栓（補助散水栓）、2号消火栓 … 半径15メートルの円

※1号消火栓、2号消火栓、補助散水栓の各基準による早見表

		1号消火栓	2号消火栓	補助散水栓
防火対象物	旅館、ホテル、病院、各種福祉施設	○	◎ 特に指導	○
	工場、倉庫、準危険物	○	×	○
	上記以外の防火対象物	○	○	○
屋内消火栓設備	警戒区域半径（基本）	25m	※15m (特例有、20m、25m)	15m
	最大同時使用個数	2個	2個	1～2個
	放水量(L/min)	130以上	60以上	60以上
	ノズル放水圧力(MPa)	0.17以上	0.25以上	0.25以上
	ノズル(φ8)の開閉装置	規定なし	開閉装置付	開閉装置付
	ホースの呼び径mm、長さ	40×30m	25×20m	25×20m
	加圧放水装置の起動方法	遠隔操作	操作に連動	操作に連動
	1個あたりの水源の水量	水源2.6cm ² (水源最大2)	水源1.2cm ² (水源最大2)	別途加算なし
	一人操作の必要性	規定なし	一人操作必要	一人操作必要
	主配管のうち立上り管	50mm以上	32mm以上	25mm以上の分岐管
	開閉弁の呼径	40mm	25mm	25mm
	開閉弁の床面からの高さ	1.5m以内	1.5m以内	1.5m以内
	消火栓箱表面の表示	消火栓	消火栓	消火用散水栓

※印は、ロビー、講堂、体育館等にあつては、最長25mまで、消火活動に支障のない未警戒部分にあつては、最長20mまで、令32条を適用して緩和しても差し支えない。(消防予第187号)

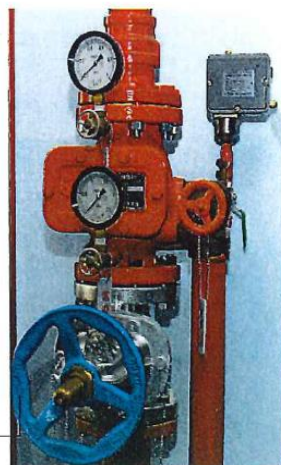
(3) その他の設備について

スプリンクラー設備

- 天井面等に配管を設けてあり、火災の熱によりスプリンクラーヘッドが開放し、自動的に散水する装置であり、**散水開始までは特別の操作は不要。**

また、火災が沈下した後は、応急止水方法として、各階にある制御弁のバルブを閉じて水損防止を図る。（制御弁の位置を事前に把握しておく。）

- スプリンクラーヘッド1個は、標準で1分間に80ℓの放水量を有し、散水半径は、2.6m程度となっている。



排煙設備

設備の役割

- 区域内に滞留した高濃度の煙を降下させることなく床上にクリアゾーンを確保する。
- 熱をこもらせない。

操作要領

- ① 自然排煙方式 … 人為的に窓を開放して排煙するもの。
手動開放装置が設けられている。
- ② 機械排煙方式 … 排煙機を作動させ、天井などに設けられた排煙から強制的に煙を吸い込み、屋外へ排出するもの。
1)手動開放装置によるもの 2) 煙感知器連動によるもの 3) 防災センター等で遠隔によるものの3つに大別される。

- 火災時に発生する煙を処理するために、必要に応じて排煙口を開放する。

(必要な排煙口のみを開放し、それ以外は閉鎖しておく。)

酸素を取り入れると火災がさらに悪化する可能性があるときは、中止すること。

- 手動開放装置は、居室の出入り口近くや廊下側等にあり、使用方法などが表示されている。



自然排煙による排煙口の例



排煙口の例



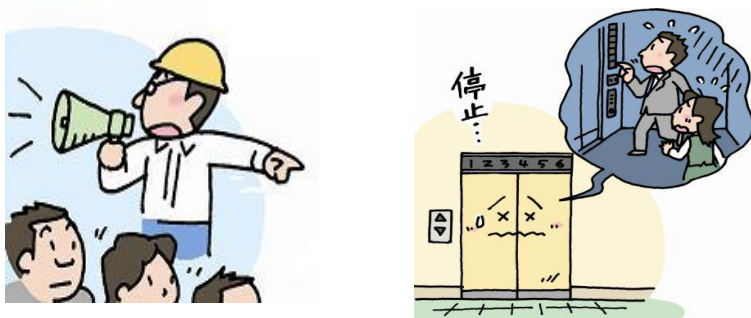
起動状況

空調設備の停止について

- 出火時において空調設備を継続運転することは、空調ダクトに火や煙が流入し、煙の拡散や火煙を吸い込むなどの危険性があるので、原則として停止させる。

6. 避難誘導班

- ・ 避難誘導は、メガホン、携帯拡声器等を活用して行う。
- ・ 誘導員は、出火階とその直上階を最優先して、通路の曲がり角、非常階段入口等へ配置につく。
- ・ (出来れば濡らした) ハンカチ等を鼻と口にあて、煙を吸い込まないよう姿勢を低くして避難するように指示する。(煙が充満している場合は、床スレスレの所に残っている空気を吸うようにする。)
- ・ エレベーターは、火災による停電で停止する恐れがあるため絶対に使用しない。



- ・ 一時的な避難場所として、隣接する建物、同一階の水平に移動(例：中央病棟 ⇄ 東病棟)や火点下階層とし、最終的に出来るだけ安全に「地上」まで避難させる。
- ・ 一度避難させた者は、再び建物内に戻らせてはならない。
- ・ 誘導員は、逃げ遅れた者がいないかを確認し、延焼防止処置の為、最後に必ず防火戸を閉めて退避する。(自動式でも、火災の状況によっては自動閉鎖を待たず、手動で閉鎖する。)

< 防火戸（常時開） >



< 防火戸（常時閉） >

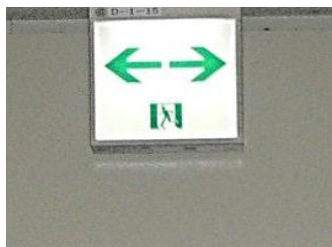


< 避難口誘導灯 緑地に白絵文字 >



（最終避難口及び避難口となる
出入口の位置の表示）

< 通路誘導灯 白地に緑絵文字 >



（避難口までの経路の表示）

< 救助袋 >



（総合外来センター）

< 避難はしご >



（中央病棟）

< 避難はしご >



（中央校舎東側）

< 屋外避難階段 >



（糖尿病センター）

7. 大地震発生時（震度5弱以上を対象）の対応

大地震が発生した時は冷静な行動が必要です。

震度が観測されたとき、揺れ等の状況（概要）は以下の通りです。

●●●●●●●● 震度と揺れ等の状況（概要） ●●●●●●●●

<p>0</p>  <p>【震度0】 人は揺れを感じない。</p>	<p>1</p>  <p>【震度1】 屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。</p>	<p>2</p>  <p>【震度2】 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。</p>	<p>3</p>  <p>【震度3】 屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。</p>
---	--	--	---


4



【震度4】


- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

6弱



【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



耐震性が高い 耐震性が低い


5弱



【震度5弱】


- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

6強



【震度6強】

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが多くなる。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。



耐震性が高い 耐震性が低い

5強



【震度5強】

- 物につかまらないうまく歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック壁が崩れることがある。

7



【震度7】

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものがさらに多くなる。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが多くなる。



耐震性が高い 耐震性が低い

（気象庁震度階級関連解説表より引用）

地震が起きたら、あわてず、まず身の安全を！！



- ・窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れる。
- ・頭を保護し、丈夫な机の下など揺れがおさまるまで安全なところで待機する。
- ・余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口の確保をする。
- ・実験中など火気を使っていたら、火を消す。又は、揺れがおさまってから、あわてず火の始末。

揺れがおさまってから、

- ・冷静に落ち着いて、建物を確認し、自分の身が安全な範囲で初期消火、応急手当をする。
- ・自分が負傷した場合は、大声で助けを呼ぶ。存在（生存）を知らせる。
- ・周囲に協力を呼びかけ、助け合いながら負傷者を救助。

- ・避難時、誘導指示に従って行動する。1階から避難させる。
むやみに外に飛び出さない。
- ・エレベーターを使わず、階段で屋外へ。
- ・タオル、ハンカチ等で口を覆う。
- ・避難のときは、押さない、走らない、しゃべらない、戻らない。

- ・デマや噂に惑わされず、正しい情報を得るように努力する。
- ・家族の安否確認、自分の安否連絡。災害伝言ダイヤル171を使用。

その他

余震、火災防止への対応（ガス漏れ対策、電気火災への対策）

- ・窓、ドアを開けて避難ルートを確保する。
- ・ガスの元栓を閉める。電気プラグを抜き、スイッチを切る。

日常の準備として

- ① 最寄りの避難階段の位置、消火器の設置場所はどこか。
- ② 一時避難場所や広域避難場所への避難経路等の確認。
- ③ 家族との連絡方法は決めているか。
- ④ 職場関係者の緊急連絡先の確認。
- ⑤ 備品、家具、ボンベ、薬品棚等の転倒防止の実施。

8. 安否確認、災害用伝言ダイヤル



・伝言の録音方法

1. 「171」にダイヤルします。
2. 「1」をダイヤルします。
3. ご自分の電話番号を市外局番からダイヤルし、ガイダンスに従い録音して下さい。

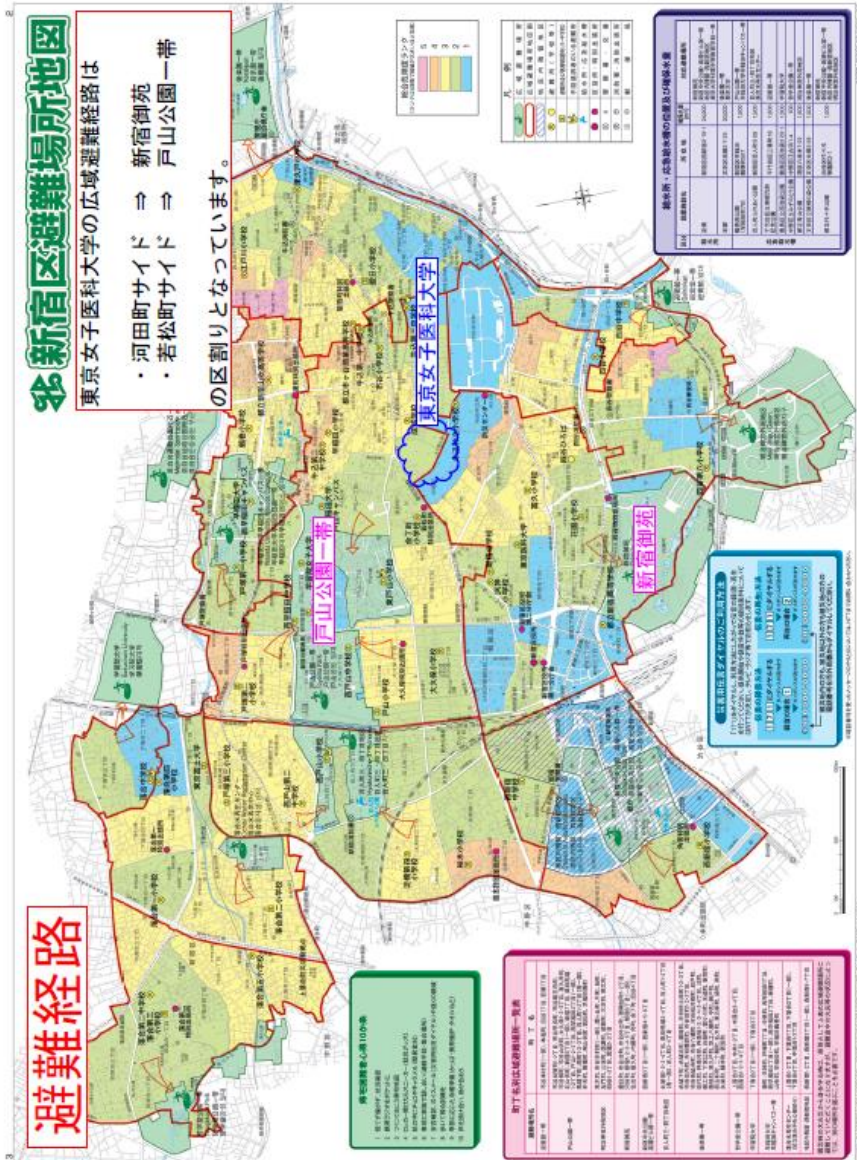
・伝言の再生方法

1. 「171」にダイヤルします。
2. 「2」をダイヤルします。
3. 安否情報等を確認したい相手の電話番号を市外局番よりダイヤルします。

(NTT 東日本ホームページより引用。
ポケットガイドを防災保安部イントラに
掲載しました。携帯用にご活用ください。)

9. 新宿区広域避難場所

- ・若松町地域⇒戸山公園一帯
- ・河田町地域⇒新宿御苑



2015年6月
防災保安部作成